

【情報公開文書】

2021年3月7日作成

Ver.1.02

研究課題名	小児炎症性腸疾患における血清カルプロテクチンおよびロイシンリッチ α -2糖タンパク質(LRG)の有用性に関する研究
所属(診療科等)	長崎大学病院 小児科
研究責任者	橋本 邦生 (助教)
研究機関	<p>《研究代表機関》 研究代表者：久留米大学医学部小児科学講座 講師 水落 建輝</p> <p>《共同研究機関》 長崎大学病院 小児科：橋本 邦生</p> <p>その他、全国（実施体制に応じて修正）約10施設で実施しています。 詳しい研究機関についてお知りになりたい方は下記の「問い合わせ先」までご連絡ください。</p>
研究期間	2021年4月20日～2025年9月30日
研究目的と意義	<p>背景：大腸及び小腸の粘膜に慢性の炎症または潰瘍をひきおこす原因不明の疾患の総称を炎症性腸疾患（IBD）といい、潰瘍性大腸炎とクローン病の2疾患があります。診断には内視鏡と病理組織の結果が必要ですが、小児では負担が大きい検査であるため、血液などで診断や病気の状態を把握できる物質があれば患者さんの負担が軽減できます。</p> <p>目的：血清カルプロテクチンとロイシンリッチα-2糖タンパク質(LRG)という物質をつかって、小児IBD患者さんの診断、特に潰瘍性大腸炎とクローン病について見分けることができないかなどを研究します。</p> <p>意義：これらの物質の有用性がわかれば、小児IBD患者さんの負担軽減につながります。</p>
研究内容	<p>●対象となる患者さん 当院も参加して実施した「小児腸疾患診断における新規血清マーカーACP353の臨床的有用性に関する検討（長崎大学病院許可番号17012321）」に参加していただいた患者さんです。</p>
	<p>●利用する情報／試料 試料：上記の研究で採取・分析した血清の残血清（凍結保存血清）。 診療情報等：診断名、年齢、性別、症状、病変部位、血液検査、合併症、内視鏡所見など 本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「問い合わせ先」までご連絡ください。</p>
	●研究の概要・方法

	検体をすでに送付し残血清が保管してある久留米大学小児科にて、血清カルプロテクチンとLRGを測定します。結果を疾患情報とあわせて解析して小児IBD患者さんにおける血清カルプロテクチンとLRGの意義を検討します。
問い合わせ先	【研究担当者】 氏名：橋本 邦生（医師） 長崎大学病院 小児科 住所：長崎市坂本1丁目7番1号 電話：095（819）7298 FAX 095（819）7301 【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く） 苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616 受付時間：月～金 9：00～17：00（祝・祭日を除く）